



The Association for Fostering a Green Globe

# Profile

会のご案内



Foster The Forest

NPO 法人 THE ASSOCIATION FOR FOSTERING A GREEN GLOBE  
地球の緑を育てる会

当パンフレットの情報は、特別な記載がないものは2016年9月時点のものです。

当パンフレットについては、無断で複製、転載することを禁じます。

Copyright © 2016 The Association for Fostering a Green Globe All Rights Reserved.

考えよう!「みどりの安全保障」

地球の環境は無償ですか?

そして丈夫で無限でしょうか?

落ち葉は腐葉土となり、雨水は深く浸みて森の養分を含み、一つの流れとなって湖沼や海へ。  
川が運んだ森のエッセンスは、野で作物を育て、海で魚介を豊かにする。  
そして、私たちをはじめ、さまざまな生き物の「いのち」のもととなる。

海からはたくさんの水分が蒸発して雲となり、風に運ばれ雨雲となって大地にそそぐ。  
森の樹木は雨と太陽の光を受け二酸化炭素を吸収し、酸素や水分を大気に放出して湿度を保ち  
あらゆる「いのち」を支えている。

太陽の光の恩恵とともに、水や大気の循環、大地の果たす働きは、すべての「いのち」の源である。

このサイクルを維持することは、緑の安全保障ともいえよう。

「世界中が平和にならなければ、個人のほんとうの平和はない」という宮沢賢治の考えは正論といえるでしょう。エネルギーや資源の浪費などによって、健全な地球の営みが失われつつあります。

「もったいない」という日本語の考えを世間に浮上させたワンガリ・マータイさんの信念に教えられます。彼女は、アフリカのケニアの人びとに呼びかけて、失われゆく森林を再生し、ノーベル平和賞を受賞しました。この地上で森林を失えば、砂漠化がすすみ、たちまち住環境は崩壊します。

ボルネオ・スマトラの森に棲むオラン・ウータン(森の人)は、森を失い保護下で生存しています。開発による森林伐採はアフリカや南米でもすすんでいます。

今のところ、人類唯一の居住地である地球共同体の大地に、私たちは住人の責任として一年に一人が一本以上の樹を植える必要を痛感しています。

須藤 高志

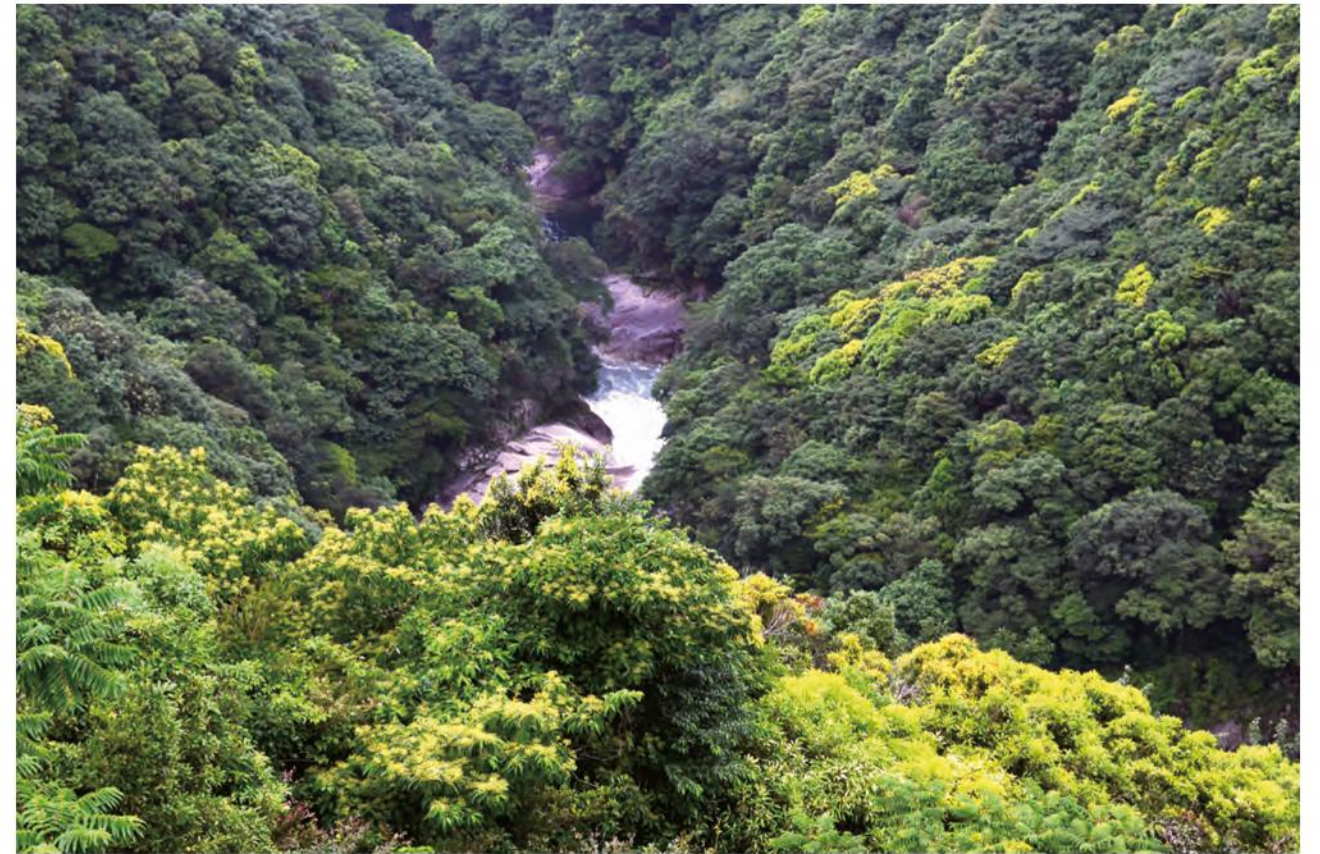
## 自然との調和を育む森づくり

私たち日本人の特徴的な考え方のひとつに、独特な自然観がありました。古くから神道や仏教の影響で、自然のありとあらゆるものに神が宿り、生きとし生けるものすべては仏のいのちを持つものと、植物や動物を尊重することに違和感を持つことがありませんでした。人も自然の一部であり、自然を支配するとゆうより、自然を敬うという気持で共存していました。

そういった自然観が里山の文化を生んだのでしょうか。

文明の発達が急速に進み、その自然観が知らず知らずのうちに自然を支配できるものと、思い込んでしまったのではないのでしょうか。

現代では目の前の地球環境そのものさえも、私たち一人ひとりの考えひとつで、その様相は一変していきます。森づくりや自然体験、古くからの作法などを通じて、私たち一人ひとりが自然観を養いつつ、自然との調和を育む環境づくりが目的です。



屋久島

## 学びは力となって

2001年10月、宮脇先生から「どんぐりは大事な地球資源です。」というお話を素直に受けて始めた苗づくり。さまざまな困難を乗り越えて途切れることなく活動は続き、今日に至っています。縁あって、広い圃場をお借りすることが出来たこと、軸となるスタッフのぶれない活動を中心に、各地からのボランティアの方がたとの出会いや協力が楽しかったこと、圃場に対する三井物産環境基金の助成金や志ある方がたのご理解、ご支援などが継続の力になったと思います。

育苗を基軸に植樹活動も始まりました。2004年、川崎市の三協興産株式会社の植樹を皮切りに、2016年9月現在までに、累計84回、参加人数延べ14,093人で延べ134,091本の植樹を行ってきました。育苗、植樹などの自然と向き合う実践活動には、単に森をつくって環境に貢献したと言うだけではなく、その中には座学や日常生活では得られない多様な気づきや学びがあることに気づかされます。活動への参加をお勧めする源泉はそこにあるのかも知れません。

小さく始めた活動でしたが、年々、企業、行政、学校、諸団体、マスコミ等の相互連携による活動が多くなっています。そのことにより、それぞれの主体が持ち味を活かしながら、自分の担当分野に責任を持ち、お互いの仕事を学び、尊敬し合って、一団体ではなし得ない領域までを可能とした活動ができます。市民活動が活発化している昨今、一つのご縁が次を生み、日本各地のご縁を絆で結びながら、環境諸課題の解決に向けて、連携力での活動の輪が大きく広がることを願っています。



「三井物産環境基金10年間の活動」より

### 理事長 石村 章子

1943年中国大連生まれ。  
東京女子大学文理学部英米文学科卒業。  
日本興業銀行外国部勤務ののち、結婚退社。  
1995年NGO日本砂漠緑化実践協会事務局長に就任。  
中国の砂漠緑化に尽力する。  
2001年にNPO法人地球の緑を育てる会を設立。

## FOSTER THE FOREST

## はぐくみ育てる

私たちが森を使って暮らし始めたのは縄文時代。人々は火を燃やすために木を切り、森で採れる山菜やキノコ、どんぐりや木の実を食料にしていたといえます。しかし、600年～850年ごろの平城京や平安京の寺社仏閣の建築ブームにより多くの森林が伐採され、製塩業や製鉄業の燃料としての木材の需要も増加し、日本の森林が荒廃した始まりと言われていています。江戸時代には、伐採できるもののほとんどを消失し、各地には「はげ山」ができました。「はげ山」は洪水の原因となったことから、森林保護の政策は、植物の採集を禁じて植林を命じ、「木一本、首ひとつ」というほど厳しい制度だったそうです。そのため森林は回復していましたが、明治時代になると再び森林が荒廃し、近代産業の発展により、明治中期はもっとも森林が荒廃していたともいわれています。社会の安定とともに植林が盛んにおこなわれ森林は回復していきますが、1941年に太平洋戦争がはじまると、大量の木材が必要となり全国各地が「はげ山」となったそうです。昭和20年～30年には、戦後の復興のため木材需要が急増し、成長の早いスギ、ヒノキが多く植林され造林のブームとなりましたが、海外の木材の輸入が始まると、高価な国内の木材は競争力を失い、放置されるスギ・ヒノキの森が目立つようになりました。

このように、時代とともに荒廃と再生を繰り返し、森林を育ててきた歴史をご存じでしょうか。再生してきたということは、私たちが生きていく中で森林の存在は必要条件だと言えます。私たちは、生態系から提供される多くの資源や利益の「生態系サービス」を得ています。ある四大文明は自然破壊の結果、滅亡したとも聞きます。私たちが何世代にもわたって、この生命を持続するには、「生態系サービス」の土台ともいえる森林が必要なのです。

現在の日本の森林面積は国土の約66%。ここ400年の歴史では最も豊かな時代で、先進国ではトップクラスですが、手入れの必要なスギ・ヒノキの森が多く、人手不足などの問題もあり荒廃している森林も少なくないのです。よりよい「生態系サービス」の享受と持続には、生態系に配慮した森林整備が必要となり、森林のクオリティが今後の課題になるのではないのでしょうか。

持続可能な人類となるには、生態系サービスを育て、すなわち森林をそだて、環境に対する意識を育み、次の世代に継承していくことが大切ではないのでしょうか。

## Let's change to green infrastructure

## 自然とつき合う、安心して安全な緑のインフラへ

## 緑のインフラ=グリーンインフラストラクチャー(Green Infrastructure)

欧州連合(EU)で策定された「EUグリーンインフラストラクチャー戦略」によると、「生態系サービスの提供のために管理された自然・半自然地域の戦略的に計画されたネットワーク」と定義されています。

グリーンインフラストラクチャーは自然の防災や水質浄化のはたらきを活用した土地利用で、人工的なインフラの代替手段や補足手段として用いることで地域社会にさまざまな生態系サービスと利益をもたらします。自然の力を最大限発揮した手法です。

環境負荷が少なく大気浄化、水質浄化、防災、減災、生物多様性の維持などの効果があり、整備コスト、管理コストを低減できるばかりでなく、レクリエーション機会の提供と私たちの健康に大きく関わっています。

かつての日本にあった、伝統的な知恵を活用した里山の土地利用は、緑のインフラのモデルといいでしょう。実は私たちにとって緑のインフラは、ごく身近なものなのです。

生態系サービスは、供給サービス(食料、原材料、エネルギー資源など)、調整サービス(気候調整、大気調整、廃棄物の分解など)、文化的サービス(精神的な刺激、レクリエーション機会の提供など)、基盤サービス(酸素の生成、土壌形成、栄養や水の循環など)、保全サービス(災害に対する備えなど)があります。このような生態系サービスは生物多様性によって支えられています。

街路樹、学校、公共施設、工場、山地などの様々な場面の植樹を通して、グリーンインフラストラクチャーを推進し生態系サービスの経済価値を広めていきます。

自然は必需、自然の力で創造性と表現力を伸ばす<sup>もりいく</sup>森育

急速な都市化や遊び方の変化に伴い、私たちが自然と接する機会は減少傾向にあります。特に都市部の子供たちの自然離れが目立つ傾向にあります。あるイベントで、落ち葉を触ることのできない子どもに驚いたことをよく覚えています。

みなさんがたのすべてに当てはまるとは限りませんが、外でたくさん遊んでいる子どもは、コミュニケーション能力や学力が高く、豊かな感受性をもっているとも言われています。特に自然の中での体験では、自然が子どもに合わせる事がなく、子供が自然に合わせる必要があり、不確実性に富んでいる自然の中では、より思考を働かせなければなりません。自然のもので何かを作ろうとすると、目的は同じでも結果が全く違ったものになります。自然の物に同じものがないからです。だから考え、創造し独自の表現をするのです。子供向けに作られた、おもちゃや遊具、公園などに比べると、自然の中での体験は「創意工夫」や「問題解決能力」を育むのに適しているといえるでしょう。

私たちは具体的な体験での気づきや感動、驚きや苦労などにより信念や価値観を持ち、その考え方を基礎に様々な判断をして成長していきます。体験は子どもたちにとって成長する基盤であり、自然の中での体験は、物事を感覚的とらえ五感を総動員することから、感性を伸ばすきっかけとなり、生命や自然を尊重する道徳観を養うと考えられます。

また、自然の中での体験は、グループでの活動や大人を交えることでコミュニケーション機会を増やし、協調性や自律性を育み実生活に役立てるとともに、体験終了の充実感や達成感を味わい、成功体験を記憶することで自信を持ち、これからの人生の中で知らず知らずのうちに活かされる体験になります。

## 沙漠緑化と筑波山森林再生の 経験が活きる森づくり

森づくりのノウハウは、都市部や大型施設、工場などの緑化にフィードバックされています。

### 原点は沙漠緑化、遠山正瑛先生から植林を学ぶ

石村理事長と須藤副理事長は、晩年にクブチ沙漠(中国・内モンゴル自治区)で緑化活動をした、遠山正瑛(鳥取大学名誉教授)先生の沙漠緑化団体で、それぞれ事務局長と理事長の職にありましたが、より広く国内外に植樹をしようという願いを持って、2001年に新たに団体を設立しました。

遠山先生からは多大な影響を受け今日まで緑化を続けてきました。  
鳥取の砂丘で砂地農業の研究をしていた、農学者・園芸学者であった遠山先生からは植林と栽培を学び、現在の活動につながっています。



鳥取大学名誉教授 遠山 正瑛

「緑なくしては人間生活できない。知恵のある人 知恵を出す。物のある人 物を出す。  
金ある人 金を出す。命出す人 命出す。4つが組んで頑張れば世界の砂漠は緑化する。  
これが私の信念」と生前語っていました。

### 宮脇昭先生と出会い、筑波山の森林再生へ

設立時に、宮脇昭(横浜国立大学名誉教授)先生の協力を仰ぎました。  
どんぐりポット苗の育成から取り組みはじめ、2005年から国内の緑化が本格的となり、「宮脇方式」の森づくりを取り入れました。  
「宮脇方式」は潜在自然植生※の樹木を中心に、多くの樹種を組み合わせ高密度に植える「混植・密植」の植樹で、生態系に配慮した森づくりです。

筑波山での森林再生は中心的な活動で、森づくりの理論や技術はさまざまな森づくりにフィードバックされています。



横浜国立大学名誉教授 宮脇 昭

※潜在自然植生とは  
ある土地からいっさいの人為的作用を停止したときに考えられる、その時点でその土地が支え得る最も発達した植生のことを指します。ドイツのチュクセン教授が1956年に考案した考え方で、原植生(人為的干渉のいっさい無い原生自然状態の森や草原)、現存植生(いまある森や草原)に次ぐ、第三の植生概念と言われています。ちなみに、わたしたちの身近な森や草原は、おおくの場合、さまざまな人為的干渉の下で成立している代償植生(その土地固有の原植生から取って代えられた植生)です。空き地のススキ草原や山奥のスギ植林も、人の採草管理・開発行為によって生じた代償植生の一例です。(国際生態学センター)

## 生態系に適した 森づくり

かつて広葉樹林が広く覆っていた日本。広葉樹の森づくりに必要なのは、まず「どんぐり拾い」から!

### 「どんぐり」から苗木を育て、森づくりをトータルプロデュース

茨城県つくばみらい市の圃場で苗木を育苗。

かつて日本の多くを広葉樹林が覆い、私たちの生活に密接に関わりをもっていました。開発などによりその森は少なくなっています。その森をつくるには、数多くの広葉樹の苗木が必要となったため育苗に着手しました。

現在、広葉樹を中心に約5万鉢~8万鉢を育苗し、私たちの森づくりに使用しており、近年では各地の植樹祭にも苗木を提供し、森づくりの促進につながっています。

苗木をつくることにより、森づくりのトータルプロデュースが可能となりました。



## 「どんぐり」からの 苗木づくり

つくばみらい市にある、敷地1万㎡の圃場で育苗がおこなわれています。  
植樹に適するまでの約3年間、大切に育てられています。



植樹に使う苗木は、2年生～3年生の広葉樹。流通の少ない広葉樹の苗木をたくさん集めるには、自分たちで育てるしかありませんでした。

種ひろいから植樹まで約3年。当初はたいへんな事もありましたが、現在5万鉢～8万鉢の育苗が可能となりました。

育苗とはいえ、植樹に使用できるまでにはたくさんの作業があります。種ひろい、種まき、土づくり、鉢上げ、灌水、施肥、除草、病虫害防除、冬越しなど、年間を通してタイトな作業が続きます。

灌水が遅れると、苗木たちの様子は一変します。葉が垂れ下がったり、縮んだり、そんな時、苗木たちも生きているんだと実感するのです。

春の新緑の季節には、新しい葉がどんどん出てきて、もの凄いパワーを感じます。早朝には空気の濃さを体感し、思わず深呼吸がしたくなる、そんな圃場です。



## 15年の実績 植樹に適した 高品質な苗木へ

設立当初より育苗がおこなわれ、積み上げられた実績は15年。苗木の品質も年々向上してきました。

圃場の育成設備は、三井物産環境基金をはじめとする支援者の方々のご協力により充実し、量産が可能となりました。

今後は、生態系に適し、植樹後のさまざまな環境に適応できるニーズの高い苗木を目指し、技術の向上や設備の強化に努めています。



20種類 約5万鉢を育苗

(2016年9月時点)

## 筑波山水源の森づくり

— この活動は筑波山神社の神社林で実施しています。—

美しい水源を育む豊かな自然

暮らしを支える水源を未来へ!!

2006年より植樹活動を開始

筑波山から湧き出る水は、茨城県、東京都、千葉県の上水道、農業用水、工業用水となる霞ヶ浦へ注がれます。筑波山の地下水貯留量は約4億m<sup>3</sup>で霞ヶ浦の湖水(約8.5億m<sup>3</sup>)の約半分に相当すると言われています。まさに、筑波山は都市近郊の暮らしを支える水源です。



都市部に近く、自然の豊かなレクリエーションの場や教育の場として貴重です

「アステラスの森」第4回筑波山植樹祭

## 生態系の豊かな 針広混交林へ誘導



植樹前のスギ・ヒノキの森



植樹後、約5年経過した森は、より自然の姿に近づいていく

研究学園都市のつくば・・・外国人の参加も多い



## 企業や団体の森も 多数誕生しています

- 【森づくりを推進している企業・団体】
- 和興フィルタテクノロジー株式会社
  - アステラス製薬株式会社
  - 株式会社常陽銀行
  - 株式会社ユーキャン
  - 土浦ライオンズクラブ



アステラス製薬株式会社の植樹祭風景

### 植樹累計本数:37,197本

(2016年9月時点)

37,197本のうち、9,830が企業・団体による植樹



## 「つくばメソッド」 と呼ばれる森林再生

宮脇昭先生の「宮脇方式」は、主に都市部や平地の森づくり  
でした。筑波山の山の中での森づくりには、応用が必要でした。

自然林の成立過程を応用して、地域に適した樹種を選択、幼苗で多種を混合  
高密度で植栽し、自然の間引きを利用して自然に近い森林を再生。  
スギ・ヒノキの針葉樹の森を針広混交林へ誘導します。

### STEP-1 間伐 広葉樹が育つ環境へ



少し強めの間伐で光を取り入れ、植栽地を広げます。  
間伐材は土留めと通路づくり utilizes、枝と葉はマルチング材として活用します。

### STEP-2 土留め・通路づくり 表土の流出防止と空間づくり



土の流出を防止して、適度に光が入り込むように通路をつくり空間とします。

#### ◁樹種を選択について▷

樹種は研究者や地元の植生に詳しい有識者にアドバイスをいただき、地域に適した樹種を選択しています。

私たちが活動している、筑波山の地域では、シイとカシが中心的な植生で、シイとカシを中心に10種類~15種類を植樹しています。

### STEP-3 エアレーション 活着と成長促進のため、表土を耕す



深さ30cmほど耕すことによって、空気をたくさん含んだ保水性のある土となり根の成長を助けます。

### STEP-4 植樹 2本/m<sup>2</sup>~3本/m<sup>2</sup>の割合で多種の樹木を組み合わせさせて植える



約60cmの間隔で、同じ樹種が隣り合わないよう、ランダムに植えていきます。  
種類を混ぜ合わせ密度を高く植樹することにより、競争原理が働き、成長が促進できます。

### STEP-5 マルチング 間伐したスギやヒノキの葉等で苗木を保護



マルチングは、土の流出を防止、水の蒸散防止、地温の調節などの効果で、植樹した苗木を保護します。  
疑似的に森の表土に近づけます。  
マルチングは3年で堆肥化。



## 環境防災林づくり

森林の防災機能を活かし、災害防止の役割を付加した森林

自然現象や人為的な原因で起こる災害からの被害や拡散を防止、軽減するためにつくられた人工の森林。



和興フィルタテクノロジー株式会社 静岡工場 2007年3月植樹 4,500本



### ◁ 「いのちを守るまちなか森づくりプロジェクト流山」

2013年9月～2014年2月にかけて、千葉県流山市の公共施設の5か所で、環境防災林づくりの植樹祭を開催。1,740名の参加者で10,400本を植樹。  
共催：流山市・毎日新聞社 支援：公益財団法人 日本財団  
(写真：下花輪福祉会館2013年9月4,000本)

### 「三五関東株式会社 植樹祭」▷

工場の環境づくりに熱心に取り組んでいる株式会社三五のグループ会社である三五関東株式会社。下妻市にある工場での植樹。(2015年11月2,500本) グループ全体で、社名の数字に合わせた35万本の植樹を目標としています。



## 苗木づくり体験と植樹講習会

苗木づくり体験や植樹講習会を通して、こどもたちの感受性を育みながら、環境に対する意識を高める活動。



日本文化書道院 玲書館(東京・世田谷)の子どもたち



植樹講習会

### ◁ 植樹講習会

圃場の一画に植樹場所をつくり「苗木づくり体験」とあわせて「植樹講習会」を開催。自然の植生を利用した植樹には、様々な知恵があります。この一連体験を通して、子どもたちは樹木の一生のプロセスに、思いをはせることができます。

### アウトフィールド書道 ▷

日本文化書道院 玲書館がおこなっている「アウトフィールド書道」は野外活動した1日を振り返り、その思いを一字に託す書道です。書道でのアウトプットは、より気づきが深まるのではないのでしょうか。



## CSR活動支援

CSR活動に植樹を採り入れたいという企業や団体に、筑波山での植樹をコーディネート。



### 和興フィルタテクノロジー株式会社

2012年より筑波山での活動を開始し、これまで5回の植樹祭を実施してきました。

静岡にある自社の工場も2005年より環境防災林づくりをおこなっており、社会貢献に積極的な会社です。これまでに自社工場に15,715本、筑波山に4,780本の植樹をしています。

#### 【他、筑波山で植樹している企業や団体】

- ・アステラス製薬株式会社
- ・株式会社常陽銀行
- ・株式会社ユーキャン
- ・土浦ライオンズクラブ

— この活動は筑波山神社の神社林で実施しています。—



## 環境整備活動

## 「森普請プロジェクト」

このプロジェクトは日本森林学会の林業遺産に選定された「全国緑化行事 発祥の地」記念碑まで、誰もが安全に通行できるように林道を整備し、周囲の環境と記念碑を保全しながら、森と人のかかわりかたを学ぶプロジェクトです。



Copyright 毎日新聞社



Copyright 毎日新聞社

### 筑波山は緑化活動の発祥の地です。

昭和9年、全国緑化の国民運動が茨城県の筑波山麓で始まりました。植樹運動は、現在の全国植樹祭に引きつがれていますが、第1回植樹地は筑波山麓にあります。豊かな森と先人の知恵を後世につなぐ決意の証として昭和61年に「全国緑化行事発祥の地」記念碑が建てられましたが、時とともにその存在は薄れ、石碑に通じる林道も荒廃しかけています。

日本の緑化の原点を大切にしたいと、森づくりの団体や行政などの各機関が連携して「緑化の原点」への山道を整備しています。森林づくりの体験を通して仲間の輪を広げ、自然と共生してきた知恵を学び、豊かな環境を次世代に引き継ぐプロジェクトです。



Copyright 毎日新聞社

## 東日本大震災復興活動

2011年3月11日、日本周辺における観測史上最大の地震が発生し、その津波により東北地方と関東地方の太平洋沿岸部は壊滅的被害となりました。

私たちは、流されてしまった森の再生や森の防潮堤への支援をおこなってきました。



震災直後の多賀城市八幡神社

Copyright:登喜神社



Copyright:登喜神社



Copyright:登喜神社



Copyright:登喜神社



Copyright:登喜神社



多賀城市 八幡神社 2015年6月 6,024本

## みんなの鎮守の森植樹祭

東日本大震災により失われた「鎮守の森の再生」と、地域のコミュニティの復活を目指そうと、一般財団法人 日本文化興隆財団が事業運営する「みんなの鎮守の森植樹祭」を支援。この事業は日本財団の地域伝統芸能復興基金から支援をいただき、鎮守の森の再生を通して、地域のお祭りや伝統文化の復活、鎮守の森と地域の方々の心を繋ぎ止めることを目標に実践している東北支援プロジェクトです。



私たちは植樹の監修として  
設計や指導に関わりました。

「みんなの鎮守の森植樹祭」

2014年4月～2015年6月にかけて、宮城県、福島県の  
6つの神社の鎮守の森を再生。

2,380名の参加者の手で、16,074本を植樹。

明神社(石巻市)/新山神社(石巻市)/五十鈴神社(石巻市)  
見渡神社(いわき市)/山田神社(南相馬市)/八幡神社(多賀城市)



南相馬市 山田神社 2015年5月 3,130本



NPO法人 地球の緑を育てる会 The Association for Fostering a Green Globe

【本部】 〒300-2358 茨城県つくばみらい市陽光台1-1-2 B-829  
tel:0297-57-1539  
fax:0297-57-1539  
e-mail: office@greenglobe.jp  
URL: http://www.greenglobe.jp

【つくばオフィス】 〒300-2358 茨城県つくば市東2-15-31  
tel:029-851-0120  
fax:029-851-0120

【圃場】 〒300-2302 茨城県つくばみらい市狸穴字向長作1389



圃場へのアクセス  
車の場合: 常磐自動車道、谷田部ICより、東進19号線を右折して直進約10分の道路左側  
電車の場合: つくばエクスプレス「みらい」駅下車、車で約10分



顧問 Adviser



1957年 広島文理科大学 生物学科卒業  
1958年 西ノ宮(現)立派生及び研究員  
1970年 鳥取県立文化センター 植物(人専)  
1974年 筑波大学 環境科学研究所 主任研究員  
1991年 第1回 農林省(現)農林省  
1992年 筑波大学 名誉教授  
1993年 筑波大学 名誉教授  
2000年 第2回 農林省  
2009年 ブルー・プラネット 賞受賞  
2014年 KYOTO 地球環境賞 受賞

横浜国立大学名誉教授  
宮脇 昭



1958年 筑波大学 農学専攻 植物学卒業  
1963年 オレゴン州立大学 博士課程  
1966年 シンシナティ大学 博士課程  
1970年 筑波大学の用生物植物学専攻  
1984年 筑波大学 農学専攻 主任研究員  
1994年 筑波大学 農学専攻 主任研究員  
1999年 筑波大学 名誉教授  
2003年 筑波大学 名誉教授  
2008年 全日本環境教育研究賞受賞

筑波大学名誉教授  
村上 和雄



1957年 早稲田大学 第二文学部卒業  
1966年 シンシナティ大学 博士課程  
1975年 早稲田大学 第一 第二文学部教授  
筑波大学 名誉教授

早稲田大学名誉教授  
長澤 和俊

入会のご案内

入会についてはお気軽にお問い合わせください。

【ご入会の流れ】

1. 上記電話番号、FAX、メール等で、氏名、住所、連絡先電話番号(メールアドレス)をお知らせください。
2. ご入会に関する資料をご送付いたします。
3. 同封の郵便払込取扱票にて入会金・年会費をご入金ください。ご入金をもって入会とさせていただきます。

【入会金・年会費について】

入会金(入会時のみ)	個人	1,000円
	法人	10,000円
年会費(一口)	個人・一般	5,000円
	専門学生・大学生	3,000円
	法人	50,000円

※ 尚、会員の有効期間は4月1日～翌年3月末日となり、年会費の日割り、月割りはおこなっておりません。入会時期につきましては十分にお気を付けてください。

沿革 The History

2001

2001年 1月 東京・神田に「地球の緑を育てる会」設立  
ポット苗づくりの活動を開始

2002

2002年 1月 特定非営利活動法人格の取得  
9月 機関誌「green globe vol.1」の発行

2003

2003年 4月 機関誌「green globe vol.2」の発行  
11月 機関誌「green globe vol.3」の発行

2004

2004年 4月 海外の植樹を開始  
中国内蒙古自治区、錫林郭勒盟澤普達克沙地の植林  
9月 国内の植樹活動を開始  
三共興産株式会社の川崎リサイクル工場で第1期環境防災林づくり  
12月 本部を埼玉県坂戸市に移転

2005

2005年 2月 機関誌「green globe vol.4」の発行  
4月 和興フィルタテクノロジー株式会社の筑波事業所で環境防災林づくり  
6月 三共興産株式会社の川崎リサイクル工場で第1期環境防災林づくり  
昨年に続き、中国内蒙古自治区、錫林郭勒盟澤普達克沙地の植林

2006

2006年 4月 中国内蒙古自治区コンセンダック沙地の植林  
5月 立正佼成会下館教会境内地の植樹祭  
8月 カンボジアため池保護の植樹  
10月 筑波山の森林再生を開始  
第1回「筑波山水源の森づくり」を開催

2007

2007年 3月 和興フィルタテクノロジー株式会社の静岡第二工場  
第1期環境防災林づくり  
4月 第2回「筑波山水源の森づくり」を開催  
中国内蒙古自治区シリント近郊の植林  
7月 第3回「筑波山水源の森づくり」を開催  
9月 第4回「筑波山水源の森づくり」を開催  
10月 立正佼成会小田原教会植樹祭

2008

2008年 2月 横浜市立山下みどり台小学校の植樹祭を支援  
3月 横浜市立新羽中学校の植樹祭を支援  
和興フィルタテクノロジー株式会社の静岡第二工場  
第2期環境防災林づくり  
4月 中国内蒙古自治区シリント近郊の植林  
11月 東京都森の森づくりプロジェクトで苗木作りボランティアに選ばれる

2009

2009年 4月 内蒙古自治区伊克昭盟達拉特旗恩格貝の植林  
内蒙古自治区阿拉善左旗盟巴彥木仁の植林  
3月 和興フィルタテクノロジー株式会社の静岡第二工場  
第3期環境防災林づくり  
4月 株式会社明治(元明治乳業)の守谷工場で第1期環境防災林づくり  
8月 プロダクト座間倉庫の環境防災林づくり  
11月 独立行政法人国際協力機構(JICA)の研修が圃場でおこなわれる

2010

2010年 3月 和興フィルタテクノロジー株式会社の静岡第二工場で第4期環境防災林づくり  
4月 第5回「筑波山水源の森づくり」を開催  
株式会社明治(元明治乳業)の守谷工場で第2期環境防災林づくり  
5月 三菱化学ハイテクニカ株式会社の上越テクノセンターで環境防災林づくり  
9月 第6回「筑波山水源の森づくり」を開催  
11月 独立行政法人国際協力機構の研修プログラムに採用され圃場で研修をおこなった

2011

2011年 3月 東日本大震災で筑波山が山禁となり「筑波山水源の森づくり」が休止  
4月 株式会社明治(元明治乳業)の守谷工場で第3期環境防災林づくり  
5月 林野庁発行の広報誌「RINYA」、2011年5月のNo. 50号に当会が紹介される  
7月 中国雲南省昆明市での植林  
9月 東日本大震災の福島第一原発事故で被災した福島県川内村の植樹祭を支援  
株式会社ゴールドフィンがCSR活動として筑波山の森づくりをおこなう  
立正佼成会足利協会がCSR活動として筑波山の森づくりをおこなう  
11月 つくば市立北条小学校植樹祭を支援  
独立行政法人国際協力機構の研修受け入れ  
中国雲南省西双版纳傣族自治州孟海県のどんぐりポット苗づくり指導

2012

2012年 4月 株式会社明治(元明治乳業)の守谷工場で第4期環境防災林づくり  
6月 NPO法人NICEの国際ボランティアの受け入れ  
NHKテレビテキスト「趣味の園芸」6月号に当会が紹介される  
第9回「筑波山水源の森づくり」を開催  
7月 和興フィルタテクノロジー株式会社がCSR活動として筑波山で  
第1回目の森づくりをおこなう  
8月 NHKテレビテキスト「趣味の園芸」8月号に当会が紹介される  
9月 世田谷区の植樹祭を支援  
福島県川内村の植樹祭を支援  
10月 アステラス製薬株式会社がCSR活動として筑波山で第1回目の森づくりをおこなう  
11月 独立行政法人国際協力機構の研修受け入れ

2013

2013年 3月 常陸銀行がCSR活動として筑波山で第1回目の森づくりをおこなう  
5月 東日本大震災の津波により被害を受けた海岸防犯林の復旧事業に参加  
宮城県荒浜で基盤造成工事や苗木の供給の支援をおこなう  
6月 和興フィルタテクノロジー株式会社がCSR活動として筑波山で第2回目の森づくりをおこなう  
7月 公益財団BBG財団WEBページに当会が紹介される  
9月 千葉県流山市でおこなわれた公共施設の環境防災林づくりをおこなう「いのちを守るまちなか森づくり」  
2013年9月～2014年2月までに5か所の施設で植樹祭が開催された  
ナニコレ珍百景で森の中の植樹祭で使用するトイレが紹介される  
10月 アステラス製薬株式会社がCSR活動として筑波山で第2回目の森づくりをおこなう  
福島県川内村の植樹祭を支援  
12月 本部を茨城県つくばみらい市に移転

2014

2014年 3月 「全国緑化行事発祥の地」記念碑までの林道の整備を開始し、記念フォーラムを開催した「道普請プロジェクト」  
4月 東日本大震災の津波で被災した神社の鎮守も森再生プロジェクトに支援 「みんなの鎮守の森植樹祭」  
2014年4月～2015年6月までに5か所の神社で植樹祭が開催された  
5月 常陸銀行がCSR活動として筑波山で第2回目の森づくりをおこなう、新人社員研修のプログラムに採用  
6月 和興フィルタテクノロジー株式会社がCSR活動として筑波山で第3回目の森づくりをおこなう  
茨城県つくば市につくばオフィス開設  
7月 圃場で一般向けポット苗づくり体験と植樹講習会を開催  
9月 土浦ライオンズクラブがCSR活動として筑波山で第1回目の森づくりをおこなう  
10月 アステラス製薬株式会社がCSR活動として筑波山で第3回目の森づくりをおこなう  
福島県川内村の植樹祭を支援  
11月 第10回「筑波山水源の森づくり」を開催  
「全国緑化行事発祥の地」記念碑までの林道の整備する「道普請プロジェクト」合同作業をおこなう

2015

2015年 1月 第2回みどりの安全保障「森づくりの道フォーラム」を開催  
5月 常陸銀行がCSR活動として筑波山で第3回目の新入行員研修の森づくりをおこなう  
和興フィルタテクノロジー株式会社がCSR活動として筑波山で第4回目の森づくりをおこなう  
7月 「全国緑化行事発祥の地」記念碑までの林道の整備する「道普請プロジェクト」合同作業をおこなう  
6月 和興フィルタテクノロジー株式会社がCSR活動として筑波山で第3回目の森づくりをおこなう  
7月 圃場で一般向けポット苗づくり体験と植樹講習会を開催  
9月 第11回「筑波山水源の森づくり」を開催  
10月 アステラス製薬株式会社がCSR活動として筑波山で第4回目の森づくりをおこなう  
第12回「筑波山水源の森づくり」を開催  
「全国緑化行事発祥の地」記念碑までの林道の整備する「道普請プロジェクト」合同作業をおこなう  
11月 土浦ライオンズクラブがCSR活動として筑波山で第2回目の森づくりをおこなう  
株式会社三五園東の下妻工場第1期環境防災林づくり  
株式会社ユーキャンがCSR活動として筑波山で第1回目の森づくりをおこなう

2016

2016年 1月 イベント用に圃場に隣接している約3反の畑を借りる  
5月 常陸銀行がCSR活動として筑波山で第4回目の新入行員研修の森づくりをおこなう  
6月 和興フィルタテクノロジー株式会社がCSR活動として筑波山で第5回目の森づくりをおこなう  
7月 立正佼成会土浦教会少年部がジャガイモ収穫祭のイベントを開催  
圃場で一般向けポット苗づくり体験と植樹講習会&収穫祭を開催  
8月 「全国緑化行事発祥の地」記念碑までの林道の整備する「道普請プロジェクト」合同作業をおこなう